

鉄道騒音の伝播過程における住宅群による減衰の影響

澤村陽一 北川敏樹 小方幸恵

欧州の多くの国では鉄道騒音の評価指標として等価騒音レベル ($L_{Aeq,T}$) が広く用いられ、将来的に日本の鉄道で $L_{Aeq,T}$ などの指標に移行する可能性があります。また、日本の道路交通騒音では、一定地域内に存在する全住居等のうちで騒音レベルが環境基準を超過する戸数及びその割合に基づいて評価する方法（面的評価）が採用されています。沿線周辺の全住宅位置で騒音レベルを測定することは難しいため、沿線の建物による影響を考慮した騒音予測が必要です。

本報告では、建物群による超過減衰の影響評価について検討を行いました。住宅群が騒音に及ぼす影響評価には道路交通騒音の予測モデル（住宅群超過減衰モデル）を用いました。新幹線・在来鉄道の騒音予測法にこのモデルを適

用し、現地試験結果と比較を行いました。その結果、住宅群超過減衰モデルの適用範囲内では概ね適切に予測することが可能であることが明らかになりました（図）。

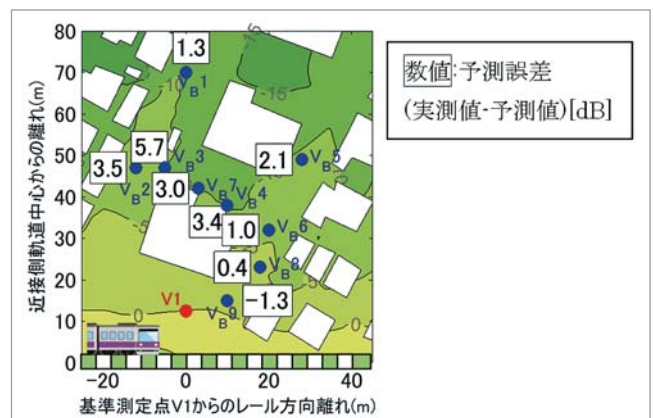


図 在来鉄道の単発騒音暴露レベルの予測分布と予測誤差